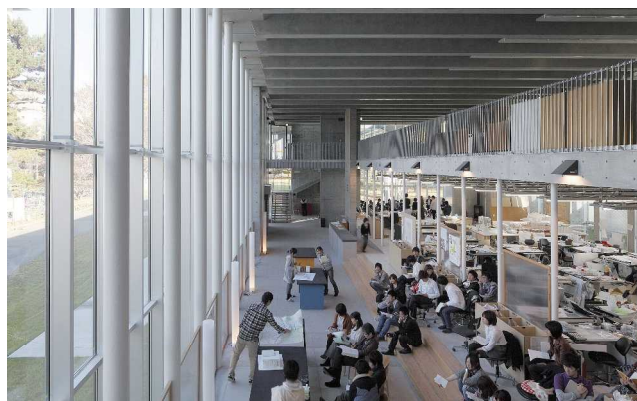


# 北海道大学工学部共用実験棟 建築都市スタジオ・オープンラボ



エントランスホールと二層に重なる製図スタジオ



MUTSUMI HALL

建築主	国立大学法人北海道大学
所在地	札幌市北区北13条西8 (北海道大学構内)
敷地面積	1,735,281.82m <sup>2</sup> (北海道大学全体)
建築面積	1,551.32m <sup>2</sup>
延べ面積	2,559.58m <sup>2</sup>
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造 および鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下1階、地上2階
最高部高さ	GL+8.90m
駐車台数	12台
工期	2008年9月～2009年3月

共同設計：小林英嗣（北海道大学名誉教授）、北海道大学施設部  
 設備設計：総合設備計画  
 監理：北海道大学施設部（北海道日建設計は技術協力）

北海道大学工学部旧建築棟の老朽化に伴う新築建替え計画。  
 北海道大学キャンパス内の中央モールと北13条ストリーートのクロスポイントに位置し、工学部建築都市コースの製図スタジオと工学系オープンラボからなる工学部の共用実験棟である。  
 計画にあたっては、隣接した「大野池」を含んだ新しいキャンパス景観を形成すべく、寒冷地タイプのサステナブル建築を実践しつつ、シンプルで合理的なデザインを志向した。コミュニケーションを誘発する連続した空間構成、重層する意匠・構造・設備計画と様々な技術的チャレンジを通して、北大建築の「伝統」と「志」を受け継ぎ、世代を繋ぐことのできる「TALO＝家」「建築を学ぶ人たちの建築」づくりを行った。